2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月12日

上 場 会 社 名　　株式会社 学究社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　9769　　URL https://www.gakkyusha.com/
代　　表　　者　（役職名）取締役兼代表執行役社長　（氏名）齊藤　浩太
問合せ先責任者　（役職名）取締役兼執行役財務部長　（氏名）新井　一男　(TEL) 03-6300-5311
半期報告書提出予定日　2026年11月13日　配当支払開始予定日　2026年12月９日
決算補足説明資料作成の有無　：無
決算説明会開催の有無　：有　（　アナリスト・機関投資家向け　）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	6,399	△2.5	1,325	△8.5	1,352	△9.0	832	△8.6
2026年３月期中間期	6,564	△1.6	1,448	6.1	1,487	6.1	911	△12.7

（注）包括利益　2027年３月期中間期　799百万円（△11.9%）　2026年３月期中間期　907百万円（△6.6%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	76.64	―
2026年３月期中間期	83.86	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	12,715	8,397	66.0
2026年３月期	12,566	8,174	65.0

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　8,394百万円　2026年３月期　8,171百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	50.00	―	53.00	103.00
2027年３月期	―	62.00			
2027年３月期(予想)			―	65.00	127.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,656	12.1	3,235	11.4	3,240	7.8	2,186	18.3	201.20

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　有

（注）詳細は、（添付資料）９ページ「２．中間連結財務諸表及び主な注記（３）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	10,968,356株	2026年３月期	10,968,356株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	100,163株	2026年３月期	100,159株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	10,868,194株	2026年３月期中間期	10,868,197株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、（添付資料）４ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は2026年12月４日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。詳細については、当社ホームページをご覧ください。また、この説明会で使用した決算説明資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、継続的な高い賃上げ率を背景とした雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、中東情勢の長期化を一因とする物価上昇や、深刻な人手不足によるコスト増加圧力が続いたほか、日銀による段階的な利上げや為替変動などにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

学習塾業界におきましては、少子化に伴う学齢人口の減少という構造的な課題に直面する一方、大学入試改革やICT教育の進展、さらには生成AI等の新技術への対応が求められております。教育ニーズの多様化・高度化を背景に、異業種も巻き込んだ競争環境が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、すべての授業に単方向映像授業を完備した「ダブル学習システム」を展開するなど、映像やオンラインを活用した学力向上体制の強化に努めております。また、安心・安全面への取り組みの一環として、すべての授業や合宿の様子を保護者様がネットでリアルタイムに確認することができるサービス「ネット授業参観」を導入しております。当該サービスの設備を利用した社内の授業点検を同時に実施することにより、授業の質の向上を図っております。

当中間連結会計期間におきましては、東京都による私立高校授業料の実質無償化などを背景に、中学・高校受験を取り巻く市場環境が変化し、当社グループが強みとする都立中・都立高を志望する生徒数の減少が業績に大きな影響を及ぼしました。

こうした市場環境の変化に対応するため、当社グループでは、都立中・都立高受験指導における従来からの強みを維持しながら、私立中・私立高受験分野への事業展開を積極的に推進しております。その成果として、2026年度入試における早慶中高の合格者数は、前年度の98名から224名へと大きく伸長しました。これらの合格実績を活かし、私立中・私立高受験を希望する生徒の獲得を強化しております。

また、地域戦略におきましても、従来の東京都を中心とした展開から、千葉県・埼玉県への進出を進めております。両県ではこれまでに「ena小中学部」を９校開校したほか、当中間連結会計期間において新たに４校の開校を決定するなど、両県における事業基盤の拡大に取り組んでおります。

さらに、当社グループの特色である合宿指導につきましても、教育サービスの充実と収益機会の拡大を目的として拡充を図っております。本年の夏期には新たに34泊35日の長期合宿を実施したほか、前年度から開始した22泊23日の長期合宿では、参加者数が２倍以上に増加しました。加えて、英語漬け合宿など新たな教育プログラムの展開にも取り組んでおります。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は6,399百万円（前年同期比2.5％減）、営業利益は1,325百万円（前年同期比8.5％減）、経常利益は1,352百万円（前年同期比9.0％減）、親会社株主に帰属する中間純利益は832百万円（前年同期比8.6％減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。なお、セグメント別の売上高はセグメント間の内部取引消去前の金額によっております。

また、当中間連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期との比較・分析は変更後の区分に基づいて記載しております。

① 教育事業

小中学生部門（ena小中学部）につきましては、都立中・都立高を志望する生徒数の減少等により在籍生徒数が前年を下回っていることから、売上高は前年同期と比較して減少しました。

個別指導部門（ena個別）につきましては、前期に実施した閉校に伴う校舎数の減少等により在籍生徒数が前年を下回っていることから、売上高は前年同期と比較して減少しました。

大学受験部門（ena看護、ena美術、ena高校部）につきましては、前期に実施したena看護の閉校に伴う校舎数の減少等により在籍生徒数が前年を下回っていることから、部門全体の売上高は前年同期と比較して減少しました。

海外校舎を主に展開するGAKKYUSHA USA グループ（GAKKYUSHA U.S.A.CO.,LTD.、GAKKYUSHA CANADA CO.,LTD.、ENA EUROPE GmbH及び株式会社学究社帰国教育）につきましては、在籍生徒数が想定どおりに推移していることから、グループ全体の売上高は前年同期と比較して増加しました。

これらの結果、売上高は6,032百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

② 不動産事業

不動産事業につきましては、保有する賃貸用物件が概ね安定的に稼働しており、賃貸収入は前年同期と同水準で推移しました。

これらの結果、売上高は86百万円（前年同期比2.8%増）となりました。

③ その他

インターネットによる受験、教育情報の配信サービス事業等のうち、広告関連売上につきましては、一般企業等法人は前年同期と比較して減少したものの、学校法人関連は新規アプリ及びバナー・制作納品の売上高が伸長したことにより、前年同期と比較して増加しました。一方で、グループ会社との取引を見直した影響により、広告関連売上全体としては前年同期と比較して減少しました。人材サービス売上につきましては、塾訪問サービスの需要が関西をはじめとする他地域や大学へと拡大し、契約校数が増加したことにより、前年同期と比較して増加しました。

これらの結果、売上高は288百万円（前年同期比12.0%減）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて、36百万円増加し、3,824百万円となりました。これは、主として売掛金及びその他（流動資産）の増加、現金及び預金の減少等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて、112百万円増加し、8,891百万円となりました。これは、主として建物及び構築物、工具、器具及び備品の増加等によるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて、149百万円増加し、12,715百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて、53百万円増加し、2,727百万円となりました。これは、主として前受金の増加、未払金及びその他（流動負債）の減少等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて、126百万円減少し、1,591百万円となりました。これは、主として長期借入金及び資産除去債務の減少等によるものであります。

この結果、負債は前連結会計年度末に比べて、73百万円減少し、4,318百万円となりました。

（純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて、223百万円増加し、8,397百万円となりました。これは、主として配当金の支払い及び親会社株主に帰属する中間純利益の計上等によるものであります。

この結果、自己資本比率は、66.0％（前連結会計年度末は65.0％）となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間における市場の動向及び当社グループの業績は、概ね計画の範囲内で推移しており、2026年５月15日に公表いたしました「2026年３月期　決算短信」に記載した通期の連結業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,417,345	3,372,600
売掛金	61,387	104,132
商品	45,857	47,475
貯蔵品	3,573	4,586
その他	259,621	295,987
貸倒引当金	△567	△653
流動資産合計	3,787,217	3,824,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,426,059	6,598,423
減価償却累計額	△2,408,049	△2,499,356
建物及び構築物（純額）	4,018,010	4,099,066
工具、器具及び備品	1,190,687	1,322,161
減価償却累計額	△1,037,282	△1,069,450
工具、器具及び備品（純額）	153,405	252,710
土地	1,603,633	1,603,633
その他	593,325	588,183
減価償却累計額	△299,315	△326,591
その他（純額）	294,010	261,591
有形固定資産合計	6,069,059	6,217,002
無形固定資産		
のれん	9,817	4,909
その他	72,281	62,586
無形固定資産合計	82,099	67,495
投資その他の資産	2,627,785	2,607,359
固定資産合計	8,778,944	8,891,856
資産合計	12,566,161	12,715,985

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,216	6,778
1年内返済予定の長期借入金	148,663	130,775
未払金	427,081	365,429
未払法人税等	508,719	545,369
前受金	1,118,793	1,322,336
賞与引当金	50,830	56,056
資産除去債務	－	1,192
その他	402,321	299,317
流動負債合計	2,673,625	2,727,255
固定負債		
長期借入金	1,013,110	956,666
退職給付に係る負債	29,450	32,954
資産除去債務	507,897	458,878
その他	167,787	142,900
固定負債合計	1,718,245	1,591,400
負債合計	4,391,871	4,318,656
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,216,356	1,216,356
資本剰余金	410,842	410,842
利益剰余金	6,769,011	7,025,987
自己株式	△226,026	△226,036
株主資本合計	8,170,183	8,427,149
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,228	△24,523
為替換算調整勘定	△20,654	△7,838
その他の包括利益累計額合計	1,573	△32,362
非支配株主持分	2,533	2,542
純資産合計	8,174,290	8,397,329
負債純資産合計	12,566,161	12,715,985

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	6,564,682	6,399,469
売上原価	4,047,940	3,963,277
売上総利益	2,516,742	2,436,191
販売費及び一般管理費	1,068,307	1,111,151
営業利益	1,448,434	1,325,040
営業外収益		
受取利息	18,907	28,202
その他	28,827	14,170
営業外収益合計	47,734	42,372
営業外費用		
支払利息	8,670	12,633
その他	397	2,104
営業外費用合計	9,067	14,737
経常利益	1,487,102	1,352,676
特別利益		
固定資産売却益	383	1,446
受取補償金	21,000	－
特別利益合計	21,383	1,446
特別損失		
減損損失	89,059	5,323
固定資産除却損	2,565	21,901
賃貸借契約解約損	18,994	890
特別損失合計	110,619	28,114
税金等調整前中間純利益	1,397,865	1,326,007
法人税等	486,484	493,008
中間純利益	911,381	832,999
非支配株主に帰属する中間純利益	21	9
親会社株主に帰属する中間純利益	911,360	832,990

中間連結包括利益計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	911,381	832,999
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,711	△46,751
為替換算調整勘定	△7,030	12,815
その他の包括利益合計	△4,319	△33,935
中間包括利益	907,062	799,063
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	907,040	799,054
非支配株主に係る中間包括利益	21	9

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。